

「むくげ通信 291号、2018.11.25」
随想「拙著 韓国での出版計画」(2)

山根 俊郎

今までの経緯

私は、以前「むくげ通信 284号」(2017年9月24日発行)で随想「拙著 韓国での出版計画」を書いた。

私が昔執筆した『カラスよ 屍を見て啼くな 朝鮮の人民解放歌謡』(1990年 長征社〔今は廃業〕発行 4500円)という本は、1948年7月に在日本朝鮮民主青年同盟 東京本部文化部が編集発行した『人民解放歌謡集』を復刻・解説したものである。この本を山根が韓国語に翻訳して韓国で出版しようという計画である。2016年12月1日東京に行き、K.A.C (コリアアーツセンター) 音楽プロデューサーの李喆雨(リ・チョルウ/리철우)さんの紹介で韓国の大手学術書専門出版社の「民俗苑」洪鐘和(ホン・ジョンファ/홍종화)社長に会い話がまとまった。

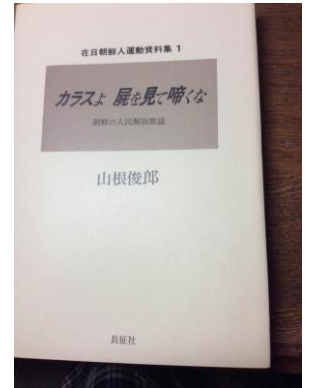
なかなか進まない翻訳作業

当初は、山根が2017年5月末までに翻訳を完成する予定であったが、果たせず「民俗苑」に謝り2017年8月末まで脱稿延期の承諾を得た。総391ページ2017年6月15日116ページ完成 第1部『人民解放歌謡集』を復刻と解説 完成。1日に3・4ページ進捗。7月5日147ページ歌の分類完成。第1部完成。8月8日ワープロのフロッピーを「ダビングスタジオ 大阪梅田支店」でPCのUSBに焼付けて受け取る。日本語を打つ手間が省かれスピードアップできた。8月11日 216ページ完成 第2部第1章南朝鮮の「解放歌謡」完成。約束の8月末にも未完成。「民俗苑」に連絡せず。9月23日現在の翻訳作業は、総391ページの内249ページ。63%しか進捗していない。挫折の危機！12月23日 287ページ完成 第2章北朝鮮の歌完成。第3章在日朝鮮人の「解放歌謡」と文化運動開始。2018年1月18日、朝鮮語版『解放新聞』が載っている「朝鮮問題資料叢書〈補巻〉解放後の在日朝鮮人運動」(1984年)の中古本をアマゾンで5000円にて購入、翻訳作業が急ピッチに進む。

遂に翻訳作業完成！

苦節1年4ヶ月を経て、2018年3月28日 総391ページが完成した！！PM10:00 メールに添付して「民俗苑」に送付した。当初の6ヶ月間、延長して9ヶ月間を大きく遅れてしまった。

翌3月29日に民俗苑の担当者からメールをいただいた。「朝鮮人民解放歌」の原稿を受け取りました。現在、校正作業を行っています。が、本書に載せられた図版資料(写真、絵画、楽譜)を送ってくださいと依頼された。結局、資料の原本を3月31日に郵送した。その後、民俗苑から何の連絡もなかった。私は、原稿を遅く送ったので気後れしていた。



良かった副作用

翻訳作業のために良かった点もあった。

1. 昔のワープロのフロッピー(1988年ー2003年分)多数をPC用CD-Rに焼き付けた事。
2. 2017年6月末で神戸学生青年センターの韓国語講座・昼会話を辞めた事。作文の宿題が多くしんどかった。(2013年1月から4年6ヶ月お世話になった)
3. 2014年4月から尼崎の公民館で教えていたグループ「韓国語ハナ」を2017年4月ー8月末まで休めた事。うるさ型のベテラン会員が代理講師をしたが、私が復帰すると燃え尽きて辞められた。会員が減ったため2018年3月にキャンペーン講座を開き会員を12名まで盛り返した。皆ビギナーなので教え甲斐がある。

催促！

時々「民俗苑」のHPで新刊案内を見ていたが一向に私の本は発売されなかった。

10月10日に洪キウオン(홍기원)会長(享年86歳)がお亡くなりになられた。

念のために11月19日「民俗苑」に「私の本の出版はどうなってますか？」とメールで尋ねた。すると担当者(たぶん女性)からの返事。「先生の原稿『朝鮮人民解放歌』は、



故洪キウオン会長 校正・校閲を進行中でしたが、担当されていた私どもの編集主幹先生の突然の別世(＝逝去)により中断されている状態です。もう少し確認する事項があり時間が要求されています。了解していただくようお願いします」という表現から洪鐘和社長ではなく、父親の洪キウオン会長みずから校正作業をしていたようである。途中で止まっていたらいつから洪社長が再開してくれるかな？じっくり待つしかない。(終)